

H 2 8 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金  
(慢性の痛み政策研究事業)  
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究  
分担研究報告書

**慢性痛に対する集学的なチーム医療に関する研究  
九州大学病院による取り組み**

研究分担者 細井 昌子 九州大学心療内科 講師

**研究要旨**

慢性の痛みに対する診療・教育の基盤において本邦で未発達である観点として、痛みの訴えを修飾する患者の心理社会的因子を治療スタッフがどう評価し、その情報をどのように役立てるかについての実践的な情報が挙げられる。九州大学病院では、ペインクリニックと心療内科が30年近くも緊密に連携してきた歴史があり、現在はこれに歯科麻酔科やリハビリテーション部のスタッフが加わり、医師・歯科医師・看護師・臨床心理士・理学療法士・作業療法士が連携した集学的治療システムが構築されてきている。本研究では、思春期女性の慢性痛症例に対して、九州大学病院の集学的なチーム医療によりADLが著明に改善した症例について治療経過を報告した。集学的治療において理学療法士が心身医学の専門家と共に認知行動学的理解を深めチームの一員として医師と連携したことが、ADL・QOLの向上に貢献し、良好な治療成果に結びついた。病院における医療資源として貴重なマンパワーである理学療法士や作業療法士が認知行動学的観点を学び、医師・歯科医師・看護師・臨床心理士と連携していく有用性が示唆された。

**A．研究目的**

慢性痛に対しては、運動療法や認知行動療法が有用であることが国際的研究によりコンセンサスが得られてきている。実際、多数の医療機関を経て、大学病院の診療科を紹介・受診する慢性痛症例では、標準的な診療ガイドラインに沿った医療処置によっても症状の改善が認められないことも多い。

そういった現状を鑑みて、慢性痛の生活障害の改善に適応的な行動活性化を目的とした「いきいきリハビリノート」が新潟大学の木村らを中心として開発され、本研究報告の筆者(細井)も心身医学の観点から、簡易かつ有効な適応行動活性化技法に基づく治療技

法の開発に参加してきた。

今回、我々は九州大学病院において、1988年頃より連携を行っている心療内科とペインクリニックの合同ペインカンファに加えて、歯科麻酔科医やリハビリテーション部のスタッフ(理学療法士・作業療法士)が月2回の定例合同ペインカンファレンスを行うことで良好な治療経過をたどった症例について、詳細を明らかにした。

**B．研究方法**

単独の診療技法では改善しなかった慢性痛の症例について、九州大学病院の心療内科・麻酔科蘇生科・歯科麻酔科・リハビリテーシ

ョン部の治療スタッフで構成される集学的診療チームで討論を行い、麻酔科蘇生科による加療、リハビリテーション部の理学療法士の加療、および心療内科医によるアドバイスのもとに理学療法士が心理社会的背景に考慮したカウンセリングを行い、いきいきリハビリノートを有効利用し、良好な治療経過をたどった具体的な症例を提示する。

(倫理面への配慮)

症例提示に際して、患者の同意を得るとともに、プライベートな情報を一部改変して提示する。

### C . 研究結果

症例 17歳 女性

a) 現病歴：

X年7月右足関節の疼痛を自覚。9月歩行困難となり、他院に1ヶ月入院。転倒時に右下肢の激痛を経験。他院にて外来リハビリを継続するが、就学困難となったため、同年11月当院麻酔科蘇生科受診し、複合型局所疼痛症候群1型 (CRPS type )と診断された。

X+1年2月持続硬膜外ブロック目的に麻酔科蘇生科入院。

b) 社会的背景：高校は吹奏楽の特待生として入学。両親・妹と4人暮らし。

c) 集学的治療の様式：2週に1度の九州大病院合同ペインカンファランスを行い、麻酔科蘇生科医、歯科麻酔科医、心療内科医、リハビリテーション部の理学療法士・作業療法士といった多職種が8-10人参加し、生物医学的観点とともに、心理社会的観点からの討論を行い、多面的病態評価、介入方法、治療目標の設定を行った。

d) 初期評価：

身体所見

X線：右足根骨萎縮

周径：下腿最大 34/37cm

ROM:右足関節背屈-5°

2点識別覚：前足部 11/22mm 踵部 20/23mm

NRS：9 (右足関節外側部)

性質:ズンズン痛い(花火が打ち上がるような痛み)

最大荷重量：6kg

リハ時の反応：荷重に対する恐怖心強い

平行棒前に行くと全身過緊張

股・膝関節のストレッチ時も右足関節の痛みを知覚

右足関節の運動イメージだけでも疼痛が出現

e) 集学的治療

d)-1 知覚 認知面へのアプローチ

Moseryらによる Graded motor imagery (GMI)を参考にして、第1段階としてメンタルローテーション、第2段階として段階的イメージ再生と感覚課題を行った。感覚課題は、注意の分散と知覚の細分化を目的に、健側での運動(体性感覚・言語化)、健側での運動(視覚 体性感覚)、健側でのイメージ(一人称)、患側でのイメージ(一人称)、患側での運動を段階的に進めた。第3段階として、ミラーセラピーを行い、患肢の加重が入院時に6Kgであったのが、退院5か月後には最大44Kgまで加重可能となり、1本杖で歩行可能となった。

d)-2 心理 社会面へのアプローチとしては、身体の調子、行動の実態(日々の出来事やリハビリの内容)、考えや感情の内容、自分をねぎらうメッセージといった項目を記載する「いきいきリハビリノート」を有効利用し、思いの表出を促した。そのなかで、不安な気持ちを傾聴し、認知のパターンを把握することが可能となり、慢性痛に適応的な認知的な工夫について、患者および家族への心理教育を行った。

e) 破局化の変化

集学的治療により、日常生活活動の改善はもとより、Pain Catastrophizing Scale で測定した破局的思考が初診時 43 点から退院 5 か月後には 3 点になり、著明に改善していた。

#### D . 考察

本症例では持続硬膜外ブロック、段階的運動イメージ (GMI) 療法、いきいきリハビリノートの 3 種類の治療を集学的に行うことにより、疼痛や破局化は軽減し生活範囲の拡大を図ることができた。慢性痛治療には、生物心理社会的アプローチの導入が有用であることが示唆されてきているが、認知・知覚面と心理・社会面の双方に段階的な介入を行っていくことが重要と考えられた。集学的治療において理学療法士が、心身医学の専門家と共に認知行動学的理解を深め、チームの一員として医師と連携し、ADL・QOL の向上に貢献し、良好な治療成果に結びついたと考えられた。

#### E . 結論

思春期女性の慢性痛患者に対して、身体・心理・社会的因子への段階的な集学的介入により身体イメージの再獲得、破局化の改善、自己効力感の向上という相乗効果が得られ、疼痛軽減、生活範囲の拡大に繋がった。集学的治療において、医師と連携した理学療法士による認知行動療法的な関わりは有用であった。

#### F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

#### G . 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 坂本英治、細井昌子、横山武志・歯科における慢性痛～三叉神経障害関連の医療トラブルにおける寄与因子は何か？・日本運動

器疼痛学会雑誌・2016・8(2) (178-187)

##### 2. 学会発表

- 1) いきいきリハビリノートを使った認知・情動・行動へのアプローチ：変化を促すために (認知行動療法に基づく「いきいきリハビリノート」による運動促進法講習会)・細井昌子・第21回日本ペインリハビリテーション学会 (名古屋)・2016.10.29
- 2) 段階的イメージ療法 (鏡療法) といきいきリハビリノート併用が有用であった CRPS に対する集学的治療の一例。永富祐太、本山嘉正、藤田曜生、塩川浩輝、細井昌子、外須美夫・第9回日本運動器疼痛学会 (東京)・2016.11.26
- 3) いきいきリハビリノートを使った認知・情動・行動へのアプローチ：変化を促すために (認知行動療法に基づく「いきいきリハビリノート」による運動促進法講習会)・細井昌子・第9回日本運動器疼痛学会 (東京)・2016.11.26
- 3) 頭頸部筋筋膜痛症患者の診断までの治療歴の状況についての検討・坂本英治、石井健太郎、大島優、加藤遥、江崎加奈子、細川瑠美子、塚本真規、一杉岳、細井昌子、横山武志・第9回日本運動器疼痛学会 (東京)・2016.11.27
- 4) 愛着の問題のある線維筋痛症難治例に対し集学的心身医学療法が有用であった一例・寺田悠紀子、細井昌子、富岡光直、安野広三、早木千絵、岩城理恵、須藤信行・第56回日本心身医学会九州地方会 (熊本)・2017.1.28
- 5) 非言語的アプローチによって、過剰適応を内省することができた線維筋痛症の症例・足立友理、木下貴廣、細井昌子、富岡光直、安野広三、須藤信行・第56回日本心身医学会九州地方会 (熊本)・2017.1.28

- 6) 慢性疼痛とマインドフルネス 臨床経験と考察 貴廣、岩城理恵、柴田舞欧  
 ・安野広三、細井昌子、早木千絵、西原智恵、4) 九州大学病院 心療内科看護部  
 岩城理恵、柴田舞欧、須藤信行・第56回日本心身 岩下富士子、柴田沙希、山下敬子、菊武  
 医学会九州地方会(熊本)・2017.1.28 恵子
- 7)呼吸瞑想法を基盤とした集学的心身医学療 5) 九州大学大学院 医学研究院 心身医学  
 法が奏功した愛着の問題のある線維筋痛症 早木千絵、西原智恵、富岡光直、須藤信  
 の一例・寺田悠紀子、富岡光直、安野広三、 行  
 岩城理恵、早木千絵、須藤信行、細井昌子・ 6) 九州大学病院 歯科麻酔科  
 第46回日本慢性疼痛学会(京都)・2017.2.17 坂本英治、横山武志
- 8) 女性肥満患者における痛み強度や減量治 療後の痛みの改善に影響を及ぼす心理・睡  
 眠因子・西原智恵、早木千絵、岩城理恵、 柴田舞欧、安野広三、須藤信行、細井昌子・  
 第46回日本慢性疼痛学会(京都)・2017.2.17
- 9)心療内科病棟における慢性疼痛患者への看 護の問題と心身医学的見地からの対策：ア  
 ンケート調査から・岩下富士子、柴田沙希、 山下敬子、菊武恵子、安野広三、岩城理恵、  
 早木千恵、須藤信行、細井昌子・第46回日 本慢性疼痛学会(京都)・2017.2.18

#### H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

- 1.特許取得  
なし
- 2.実用新案登録  
なし
- 3.その他  
なし

#### 研究協力者

- 1) 九州大学病院 リハビリテーション部  
永富祐太、藤田曜生、飯盛美紀、岡澤和哉
- 2) 九州大学病院 麻酔科蘇生科  
本山嘉正、塩川浩輝、外 須美夫
- 3) 九州大学病院 心療内科  
安野広三、寺田悠紀子、足立友理、木下